

フォーライフ桃郷便り

発行所
毎日寿心社
世田谷区北鳥山7-8-11
TEL03-3300-1600

11月号

※感染症対策は
十分に配慮しており
ます。

花と緑の広場へ
散歩に出かけました
@ショートステイ



施設での行事およびイベント紹介

【11月イベント予定】

- 5日(日) 東三条 外出イベント
- 15日(水) 三条 アニマルセラピー
- 19日(日) 地域貢献事業 介護教室
- 24日(金) デイサービス お誕生日会
- 30日(木) デイサービス 買い物支援



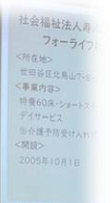
【12月イベント予定】

- 21日(木) 3条 クリスマス会
- 下旬 2条 クリスマス会
- 23日(土) デイサービス ケーキバイキング
- 25日(月) デイ&ショート 大爆笑クリスマス会!



せたがや福社区民学会での発表報告

11月11日(土)東京農業大学で開催された区民学会で『多様性を認め合う共生社会づくり』をテーマに、フォーライフ桃郷からは【外国人の受け入れで学んだ事】という内容で鬼島施設サービス部長と桑江教育担当が登壇して、発表を行いました。
外国人受け入れの苦労や成功例など時間には収まり切れないほど盛りだくさんな内容でした。(時間オーバーで注意されちゃいました🙄)コメントーターの方からは、「外国人を受け入れている施設と今回の内容を情報共有できると良いですね。」と評価を受けました。



フォーライフ桃郷便り 祝100号！！

「フォーライフ桃郷便り」が、今回で「100号」となります！創刊者の施設長へインタビューをしました！

Q.第1号を発行した、当時の想いを教えてください！

A.施設で開催したイベントや活動、日常での様子など「施設でどのように過ごしているのか」、「何をしたのか」、見れない部分をご家族に伝えることができれば、ご家族の安心に繋がるかなあという思いで始めました。

Q.100回の発行を続けられた秘訣はなんですか？

A.私だけだったら…たぶんこんなに続けてなかったと思います。そのあとを引き継いだ編集長が有能だったと思います。

Q.発行を続ける中で、一番大変だったことは？

A.ネタ探しです。

Q.フォーライフ桃郷だよりの「ココを注目して！」

というポイントは、どんなところですか？

A.全部隅々まで読んでいただければ、フォーライフ桃郷の特色や職員の人となり、どんな日常が繰り広げられているのかが分かっていただけたと思います。

Q.最後に、一言お願いします！

A.これから色々な情報を発信して参ります。皆様からの温かい言葉が励みになりますので、記事を書いた職員に気軽にお声掛けいただけると幸いです。

ありがとうございました！

カピバラに触れあってきました。

私ごとですが先日、吉祥寺にあるカピバラと触れ合えるカフェ（通称カピネコカフェ）に行ってきました。

皆様ご存じかと思いますが、カピバラはネズミの仲間、齧歯目（げっし目）に分類されます。世界で一番大きなネズミです。南アメリカのパナマからアルゼンチン北東部にかけて川のほとりの草原や湿地帯に生息をしています（情報元はウィキペディアより引用）。

カフェといってもご飯を食べる事はできませんが、店内では猫やカピバラに餌をあげることができ、ムシャムシャと食べる姿や歩く姿に終始癒されています。カピバラに触る事が出来る数少ない経験が出来たことは人生36年が経ちましたが、トップ100に入るくらいに嬉しい出来事となりました。

私とカピバラの出会いは、学生の頃に行った井之頭恩賜公園にある動物園です。園内で凜と佇むカピバラの姿に、私は目を奪われました。その瞬間よりカピバラはデズオーランドの黒いネズミよりも可愛く、世界で一番かわいいネズミとなりました。

西三条 木〇 雄◇



永年勤続表彰

居宅サービス部 ショートステイ

△田 ◇

2023年11月をもちまして

勤続10年となりました！！



施設への貢献に対し、表彰状とお祝いが授与されました。

Q.今の気持ちを一言お願いします！

世界一大切で大好きな祖母から勧められ始めた介護職の道。これからも頑張ります！

編集後記
チャレンジ

先日、年末にTBSで放送されている某テレビ番組の書類審査を通過し、出場権をかけた予選会に参加してきました。予選会には本選出場をかけて、過酷な種目に挑戦する内容でした。筋力と、運動神経には自信があったのですが、結果は惨敗でした。予選会の参加者は猛者だらけで、ひよっとしたら予選会を通過できるのではないかと考えていた甘い考えや、自分の筋力や運動神経を過信していたことを痛感し、緑山スタジオからの帰路は放心状態でした。ただ、今はもっとトレーニングを頑張っ来年またチャレンジするというモチベーションに変わっています。

40歳を過ぎてても毎日のようにジムに通い、ボディビル大会に参加しているのは、自分の可能性に蓋をしたくないのと、目標に向けて取り組む過程や、大会に出ることがモチベーションになると生活がすごく充実するというのがあるのかと思います。

81歳ではじめてつくったゲームアプリが（しかも独学！）世界で認められて、国連でスピーチすることになった、若宮正子さんの言葉、「とにかくバッターボックスに立つてみる。バットを振ったら当たるかもしれないじゃないですか。」

いくつになってもチャレンジすることは大事なことだと思います。

編集長 木上 健